

■南アフリカ：原子炉新設計画を一時延期か

エネルギー省 (DOE) は 2013 年 11 月 21 日、2011 年 3 月に公表された電源開発計画 (IRP 2010-30) の改定案を同省ホームページに掲載した。IRP 2010-30 は 2 年ごとに見直されることになっており、DOE は、南アフリカ地域のエネルギー開発動向や、2010 年頃から大きく変化した電力需要の見通しなどを勘案し、改定案を作成した。これによると、2030 年の需要電力を 4,540 億 kWh から 3,450 億～4,160 億 kWh に、最大需要電力を 6,780 万 kW から 6,120 万 kW にそれぞれ下方修正されている。このため、原子力発電所の新設計画は遅らせることが可能とされ、基本ケースでは 2025 年以降、低需要ケースの場合は 2030 年代まで、原子炉の新設は必要ではなく、水力やシェールガスなどの地元にある資源による電力で賄うことが可能とされている。改定案については、来年 2 月までパブリックコメントを募集、それらを反映した最終案が 2014 年 3 月に内閣の承認を受ける予定になっている。